

呉共済病院 公的医療機関等 2025 プラン 主な変更点

新 (R3.9 改定)

【2 今後の方針】

② 今後持つべき病床機能等

現在の高度急性期病棟、急性期病棟は維持する必要があるが、CCU病床として6床のハイケアユニット化を検討する。また、地域包括ケア病棟或いは開業医から要望がある「がんの緩和ケア病棟」の整備について検討する。

地域医療構想における呉医療圏の病床機能では、2025年の機能別の必要病床数は回復期が不足していることから、当院としては地域医療構想の一翼を担うために、回復期の地域包括ケア病棟を設置することに取り組む。

地域包括ケア病棟を設置するためには、400床未満の許可病床とする必要があることから、休床となっている一般病床（21床）及び結核病床（22床）の計43床を返還する。

病床返還のうえ、急性期である一般病床の一部（39床）を回復期へ転換する。

【3 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

区分	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	60床	→	60床
急性期	313床		274床
回復期	0床		39床
慢性期	0床		0床
(合計)	373床		373床

旧 (H29.9 策定)

【2 今後の方針】

② 今後持つべき病床機能等

現在の高度急性期病棟、急性期病棟は維持する必要があるが、CCU病床として6床のハイケアユニット化を検討する。また、地域包括ケア病棟或いは開業医から要望がある「がんの緩和ケア病棟」の整備について検討する。

【3 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

区分	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	60床	→	60床
急性期	313床		334床
回復期	0床		0床
慢性期	0床		0床
(合計)	373床		394床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標
2021～2023 年度 R3～R5	2022年1月末までに休床となっている一般病床21床、結核病床22床を返還 2022年度内までに急性期機能の病床の一部を回復機能へ転換	地域医療構想調整会議において自施設の病床機能転換について合意を得て、2022年度内までに病床機能転換を図る

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85%～90%
- ・ 手術室稼働率：70%
- ・ 紹介率：80%
- ・ 逆紹介率：130%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：50%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：1.5%
- その他：DPC係数の機能係数Ⅱの効率性・複雑性係数を全国平均以上にする。

2022年度内までに急性期機能の病床の一部を回復期機能へ転換するにあたって、資金については自己資金に加えて、補助金（広島県病床機能分化・連携促進基盤整備事業）を活用して整備する。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標
2021～2023 年度 R3～R5	新規追加	新規追加

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85%～90%
- ・ 手術室稼働率：70%
- ・ 紹介率：80%
- ・ 逆紹介率：130%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：50%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：1.5%
- その他：DPC係数の機能係数Ⅱの効率性・複雑性係数を全国平均以上にする。